

今から10年後には、9割の人が70歳を超え、20年後は7割が80歳を超え、そして今の日本では80歳を超えた人は平均89歳まで生きますので、30年後には85歳以上が1千万人を超えまして日本最大の勢力となるのです。

日本は今、世界の中で例を見ないスピードで高齢化が進んでいくという問題が起きているのです。現役がどんどん減って行って子どもが際限なく減っていくことが最大の問題です。子どもが減り続けたら日本という国が消滅してしまう。どうしたらいいのでしょうか？

冒頭、私がお見せしたとおり、日本国内のお店の売り上げはいくら品物を並べてもまったく増えない。いつから減っているのか。実は現役の人口が減りだした96年をピークに減っているのです。働く若い人がどんどん減る中で、対策は限られてきます。

3つの対策

「デフレの正体」の中での提言

- I 生産年齢人口減少→経済縮小への対処策**
- ① 生産年齢人口が減るペースを少しでも弱めよう
 - ② 生産年齢人口に該当する世代の個人所得の総額を維持し増やそう
 - ③ (生産年齢人口+高齢者による) 個人消費の総額を維持し増やそう。
- II 目標達成のための提案**
- ① 高齢富裕層から若い世代への所得移転の促進
 - ② 女性就労の促進と女性経営者の増加
 - ③ 外国人観光客、短期定住客の増加

ここに書いた3つが対策です。①若者の給料を上げる。②女性の給料を上げる。③イタリアやフランスのように、少しでも女性が買う気になる商品を女性が経営して作る。③は結構、京都はやっていますね。②は今ようやく始まったところです。①は弱いかなという感じがしますが。

景気よりもワーク・ライフ・バランスの回復

- ・問題は「国際競争」ではなく「日本人の加齢」
 - ・地域間格差拡大ではなく大都市も急速に高齢化
 - ・「少子高齢化」ではなく「現役世代の減少」
 - ・「出生率低下」ではなく「親世代の絶対数の減少」
 - ・「労働力の不足」ではなく「消費者の不足」
- 経済再生の鍵は「次世代を産み旺盛に消費する現役世代のワーク・ライフ・バランス回復」。つまり、
- ① 女性就労の促進と男女間賃金格差解消
 - ② 多世代同居→退職高齢男性による家事分担
 - ③ 「値上げし賃上げできる商品・サービスへの移行」
＝「低価・大量・少種」から「高価・少量・多種」へ

日本で起きていることは国際競争ではなく、高齢化ということです。大都市がどんどん高齢化し、現役がどんどん減っている。つまり、消費者がいなくなっているのです。その対処法は、消費する人間にお金と時間を与えるということ。これを「ワーク・ライフ・バランス回復」と言います。若い人は、給料が安い上に深夜まで売れない商品を売るために働いている。しかし人口が減っているから、いくらやっても売れない。そうすると、ますます給料が上がらない。ダブルパンチでどんどん子どもが減っているのです。

ある企業が、東京の20代の人に「お金があったら何をしたいですか？」という調査をしました。1位は何だったでしょう？今の東京の20代がお金があったら一番したいことは、「結婚」でした。お金がないので結婚もできない。そういう状況では子どもも生まれません。

ワーク・ライフ・バランスがめちゃくちゃに崩れているのです。もっと女性も働いて、夫婦でこの安い給料を補い合えるようにして、かつ、家事は年寄りが分担し、そして企業は、安い物を大量に作って競争するのではなく、イタリアやフランスがやっているように、値上げしても売れる商品を、もっともっと増やしていくということです。

日本には働いていない女性は全女性の55パーセントいらっしゃいます。専業主婦だけで1千7百万人。この中に働きたい方が結構います。大まかな数字ですが、専業主婦の3人に1人、「働きたい」と思っている人が働くだけで、5百万人の働く人口が増えたことになるのですね。

女性の就業率と出生率

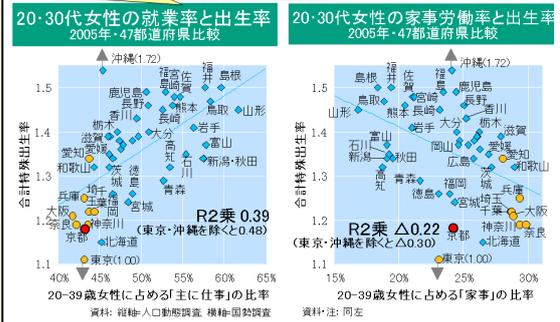
女性が働くのと人口が減るのではないか、どう思いませんか？女性が働いている県は子どもが生まれていないのでしょうか？

20代、30代の女性がフルタイムで働いている県と、あまり働いていない県は実に2倍ぐらい差があります。

日本の都道府県をグラフにまとめてみますと、若い女性が働いている率が高いほど右に行くのですが、一番女性が働いている県が山形で、次が島根。女性が働いている県の出生率は高いですね。それで、女性が働いておらず子どもも生まれていない県は東京が最低で、その次は京都です。

女性が働く県ほど出生率が高い

「女が働くようになって子供が減った」というのは、まったく事実と反する思い込み



女性が働くと子どもが減るというのはまったくの思い込みですね。実際には女性が働くと保育所を利用できる分、子育てがしやすくなる上、ダブルインカム(共働き)なので、1人で我慢していた人が2人目を持つとかと、子どもを我慢していた人が産んでみようかと増えていくので、当然子どもが増えていくわけですよ。

地域活性化の鍵

地域活性化の鍵：女性経営者増加

日本はモ/余り・カネ余りの高度消費社会 → 客はバブル期までとは別人種 → 欲求が高度化、抽象化、多様化

→ 自分自身が客としてのセンス・能力を磨いていない人間（豊かさを知らない人間）にこれからの経営はできない

ところが多くの地方では、客の気持ちに無関心な高齢の男性が、30年前のままの感覚でトツを取っている → そのために客が逃げ、経済の衰退が著しい

地域活性化のためにいま一番必要なのは、地域の様々な主導的立場から、その任にない人や団体を退場させ、新しい人材や団体に厳しい役割を与えて練成していくこと

必要なのは、性別年齢を問わない地域の人材力の総結集 → 結果として必ず、女性が地域づくりの前面に出てくる

女性が経営するべきです。日本の女性はすでに教育を受けているし、福祉も受けるわけですし、年金の払い込みが増えるだけで何も問題ないです。

ところが、やれないのです。それには理由が2つあります。

障害は男の側の「人格形成不全」

- ・男女共同参画の最大の障害は、女性への侮りが染み付いた、一部男性の存在

彼らにして見れば：

- ・男の方が、より能力のある女性よりも地位を得やすい
今までの世の中の仕組みは、ライバルが減って好都合
- ・「しっかりした個を確立し、集団に頼らない本当の自信を持つ」ことができていないので（人格形成不全）...
→自分が「男であること」「女ではないこと」という、個性とはいえない、大ざっぱなものに、自分自身の心の支えを頼ってしまっている

男性側の問題から先に言うと、ごく一部の男性ですが、「お前は男だろ」と育てられすぎ、「俺は男だ」と考えすぎる人がいます。しかし、世の中の半分は男性ですから、あまり差がつかない。それで、横にいる女性を、「お前、女だろ」と見下すような非常に不幸な物の考え方をする人間が、一部の男性に存在します。

女性側にも求められる課題克服

- ・男社会のシステムに浸った多くの女性の、経験不足と、主張の弱さ、受身の態度
- ・「女の敵は女」というさみしい状況 - がんばる同性を支援できない心の貧しさ
- ・結局は、腹を据えて表に立ち、批判を堂々と受ける女性の増加が、世の中を変える

女性側にも問題がありますね、これは一部だと言いたいところですが、結構多いです。男性の後ろに回り、なるべく表に立つまいとする、これはものすごくまずいです。女の人に成功する人が相対的に少ないのは理由があって、失敗する人が少ないからです。男性でも、女性でも、何かにチャレンジして成功する人は、10人に1人ぐらいしかいないものです。だから、女性が9人失敗しないと1人成功する女性が出て来ないのです。

どんどん失敗する女性を増やそうということです。どんどん表に出てきて、失敗を怖れずに頑張る人が増えないとダメなのです。

でも一つ、大問題があります。そうやって女性が働くのはいいけれど、家事は誰がやるのか。

若い女性が仕事へ働きに出て、退職年齢に達した世代が家事を引き受ける。時間があまったら遊んでいたいて、貯金を地域内できれいに使い切っていたきたい。あなたが貯金を使うと雇用が残る、遊ぶと文化が残るのです。そして何よりあなたが家事を引き受けると、手本が残る。

退職年齢に達した世代への期待

- × まだまだ若い者に負けず、企業経営者としてばりばりと働く
←→ 働く若い女性の代わりに家事を引き受け、余った時間は心豊かに遊び、貯金を地域内できれいに使い切り、後の世代に雇用と文化と、老後はこう暮らすんだという手本を残す
- × 地域社会のリーダーとして、生き生きと活動する
←→ 人に指図せず、権限闘争、路線闘争もせず、人目につかないところで黙々と世間さまのお役に立ち、一隅を照らす存在になる
- × 世の中の根本の誤りを正し、日本社会を正しい方向に導く
←→ 口よりも手を動かして身近な人の役に立ち、地域と親族から愛され惜しまれる人となる



亡くなる時に愛され、惜しまれるということが人生の最大の目標だと思いませんか？ それはどこから来るかといいますと、男性の家事参加から来るのです。企業でバリバリやっていた人がさっさと家事やって、ちょっと雇われてお手伝いに行くとか。なぜか頼むと高齢の男性が来て、すごく要領がいいと。若夫婦はそれで働きに行けると、そういうことをどんどん増やすべきです。物を売る方はやはり、女性が考えた方が売れる。

これからは、眠る男性の家事パワー大爆発の時代です。そして、女性がどんどん働きに出る。子育てもそうですね。やはりおじいちゃんおばあちゃんが育てた方がちゃんと育ちます。甘やかしたらダメですよ。最近、甘やかが多いからいけないですけどね。年寄りの知恵が子育てと家事に生きる時代こそ、真に豊かな時代です。これも含めたワーク・ライフ・バランスの回復。このことが京都の未来を作っていくのです。

ご清聴ありがとうございました。

